研究（その２）

自律的学習者が育つ英語授業

―インタラクティブなリーディング指導を通して―

（実践者）河野　圭美

１　研究テーマ設定の理由

グローバル化社会の進展，東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い，次代に生きる生徒には，英語でコミュニケーションする力が更に必要となる。そのために，英語を知識として蓄積するだけの学習者ではなく，学んだことを積極的に使っていき，更にそれらを伸長させようとする自律的学習者を育成しなければならない。

また，持続可能な社会を形成するために，異なる文化や歴史的背景を持つ人々と共存し，課題をよりよく解決することができる資質や能力が求められている。そのために，様々な考えを持つ人々が良好な関係を築きながらコミュニケーションを図っていくことが必要である。良好な関係の上に成り立っているコミュニケーションとは,相手の言いたいことを理解して適切に応じたり,自分の言いたいことを相手に分かりやすく伝えたりすることである。つまり，論理的に思考し，適切な表現や態度で表現する力である。昨年度までの研究において，ペアやグループでの学び合いが，生徒の自律性や学習成果を高めるのに有効であることが分かった。本年度も，仲間と共に学び合う関係において，論理的に思考し，適切な表現や態度で表現する力を発揮することを通して，学びの質や生徒の主体性を高め，コミュニケーション能力の向上につなげたい。

仲間と共に学び合う中で,「自律的学習者が育つこと」を意図して授業を構成することにより,自分の気持ちや考えを表現し伝える力を育成することができると考え,本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

(1) 論理的に思考し表現する学び合いの工夫

英語科では，論理的に思考し表現する力を，「相手が理解できるように筋道を立てて分かりやすい英語で表現する力」としている。この力を育成できるよう，以下の二つのことを実践する。

一つ目は，教科書本文の内容理解の際，生徒たちに質問を作らせることである。生徒は「問答ゲーム」や，英語科で１年生の頃から行っているパフォーマンステストを通して，６Ｗ１Ｈを使って質問をする力を身に付けている。その力を本文の内容理解の際にも活用したい。

二つ目は「話型」を取り入れることである。論理的に思考し，それを表現させるために，まずはその型をしっかりと身に付けさせることが大切であると考え，昨年度より「話型」を用いて話し合わせている。本年度も「話型」を活用し，更に高いレベルのコミュニケーション力を育成したいと考える。

(2) コミュニケーション能力を高める学習指導

３年生の教科書の内容は，日本文化や環境問題、世界平和などのテーマが取り上げられ，生徒はこれらの学習を通して，今までの自分を見つめこれからの生き方を考えるようになる。教科書を読んで理解した知識を活用して，思ったことや感じたことなどを自由に表現するフリーレスポンスなどの活動を通して，思考力・判断力・表現力を育む技能統合型の授業実践を繰り返し行っていくことで，コミュニケーション能力も更に高められると考える。

(3) パフォーマンス評価の充実

年に４回，パフォーマンステストを計画しており，その内容は日本文化について ALT に紹介するものや尊敬する人物紹介などである。その際，論理的に思考し，適切な表現や態度で表現する

力を測るための評価基準を明確にした評価表を生徒に用いさせる。これらのことは，課題解決に向けて自ら考え解決していこうとする態度の育成につながったり，メタ認知力が高められたりして，自律的学習者に必要な態度や姿勢を身に付けることができる。

３　研究の実際

(1) 生徒の実態

英語に関する興味・関心は高く，積極的に授業を受けている。ペアやグループ活動においても，教え合ったり協力し合ったりしながら取り組むことができる。本年度は，12 月までに３回パフォーマンステストを行った。アイコンタクトや笑顔，リアクションなどのコミュニケーションスキルに加え，コミュニケーションストラテジーを積極的に用いて，自然な対話ができる力を身に付けている。また，友だちの発表の後で質問をしたり感想を述べたりできる生徒が増え，対話をスムーズに行う力も身に付けている。クラスの半数以上の生徒は，４技能の中で「話す力」を特に身に付けたいと考えている。友だちとの学び合いを通して，コミュニケーション力を高めさせたい。

(2) 授業の実際

ア　指導の実際

(ｱ) **単元名**　TOTAL ENGLISH 2 Chapter 3　Lesson 5 Stevie Wonder－The Power of Music

(ｲ) **「逆向き設計テンプレート」による単元計画**

第１段階：求められている結果	
【本単元における目標】 ・関係代名詞を用いて，人や物について詳しく説明することができる。 ・スティービー・ワンダーの伝記を読み，彼の主張や思いを理解することができる。	
【本質的な問い】 スティービー・ワンダーの主張や思いを効果的に読み取り，理解するにはどうしたらよいのか。	
【永続的な理解】 まとまりのある英文を読み理解するには，まずは概要をつかむことが必要である。この単元はスティービー・ワンダーの伝記であり，冒頭で述べたスティービー像を後で詳しく説明していく，というパターンで書かれている。その後は，時系列で話が展開し，最後に物語から得られる教訓やメッセージを読み取ることができる。このような文章の構成パターンは英語の文章の特徴の一つであり，６Ｗ１Ｈを意識して文章を読めば，内容を効果的に読み取ることができる。 読み取ったことについて自分の考えや感想を述べる活動を行うことにより，スティービー・ワンダーの主張や思い，メッセージの真の意味を深く考えるようになり，英文への理解を深めることができる。	
【生徒は次のことができるようになる】 ・話型を参考に，スティービー・ワンダーの音楽活動について，自分の意見や感想を聞き手に分かりやすく表現できる。 ・友だちの意見や感想を聞いて，話型を参考に，応答することができる。 ・まとまった英文の構成パターンを理解する。 ・事実発問を作ることができる。	
第２段階：評価のための証拠	
【パフォーマンス課題】 あなたは世界各国から中学生が集まって，さまざまなテーマについて英語で話し合う中学生国際会議に参加しています。グループごとに分かれて，自分の意見や感想を発表したり，他の生徒の発表したことについてコメントを述べたりしなければなりません。自分の意見や感想をはっきり述べるとともに，論理的にまとめた内容で発表しなさい。また，今までに学習した表現をできるだけ使いなさい。	
【他の根拠】 ・retelling の発表の様子　・ペアでのＱ＆Ａの活動の様子　・ワークシートによる記述　・自己評価表	
第３段階：学習計画	
関係代名詞（主格 who，which，that）を用いた文の構造を理解する。	３時間
Lesson 5A～5D の本文の内容を理解し，スティービー・ワンダーの音楽活動について自分の意見や感想を伝え合う。	４時間
Lesson 5 の学習内容をまとめる。	１時間

(ｳ)　授業の実際（５/８時間）

①主　題　スティービー・ワンダーの音楽活動について自分の意見や感想を述べよう。

②ねらい

○読み取った内容について質問を作ることができる。

○既習表現を用いて，自分の意見や感想を適切に表現することができる。

③展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　Lesson 5Aの retelling を行う。　（全体）	5	○絵を参考にしてスティービー・ワンダーについて５文程度で説明する。また，その際自分の考えも述べる。	○retelling を通して友だちの考えを聞くことで，本文の内容理解や自分の考えを深めた。
2　英語の歌を歌う。（一斉）	5	○“We Are the World”を歌おう。	○歌を歌うことで，学習意欲を高めさせた。
3　Description Game を行う。（一斉）	5	○関係代名詞を用いて，提示された物について説明したり，答えたりしよう。	○既習の文法を復習させることによって，本文に出てくる文の理解を助けた。
CAN-DO　I can express my idea about Stevie Wonder.			
4　本文の内容を理解する。（一斉）↓（個人）↓（ペア）	20 （５） （２） （２） （６） （５）	○新出単語について英語で説明を聞いて理解しよう。 ○本文を１度聞き，内容を大まかに理解しよう。 ○人生のターニング・ポイントになった交通事故の様子について説明を聞こう。 ○本文を読んで，本文に関する事実発問を２つ作り，その後でペアで質問を出し合おう。 ・How old was Stevie when he released his first album? ・Did his first album make him a big star? ○本文の音読練習をしよう。	○英語で説明することで，単語についての理解を深めた。 ○スキーマを与えることで，推論発問に対する自分の考えを持たせやすくした。 **○論理的な思考が身に付くよう，６Ｗ１Ｈを意識して作らせた。** **◇読み取った内容について質問を作ることができた。（ワークシート）** ○対話的な学びを通して，理解を深めさせた。また，リスニングやスピーキングの力も高めさせた。 ○デジタル教科書を用いることで，学ぶ意欲を高め，効率的に本文理解と音読をさせた。
5　グループで話し合う。（個人）↓（グループ）	13 （５） （８）	○スティービー・ワンダーについて自分の考えを英語で書こう。 ○グループで自分の考えを伝えよう。また友だちの考えを聞いてコメントを述べよう。 ・I think Stevie wanted to help others who have difficulties. ・I think Stevie is a strong man, too.	○即興で会話ができるようになるために，メモを取らせた。 **○論理的に思考し，表現できる力が身に付くよう，自分の考えをまとめるときや話合いのとき，話型を用いさせた。** ◇既習表現を用いて，自分の意見や感想を適切に表現することができた。　（観察・ワークシート）
6　本時の学びを振り返る。（個人）	2	○本時の CAN-DO が達成できたか振り返ろう。	○振り返りを通して，次回の自分の考えを表現する活動への意欲を持たせた。

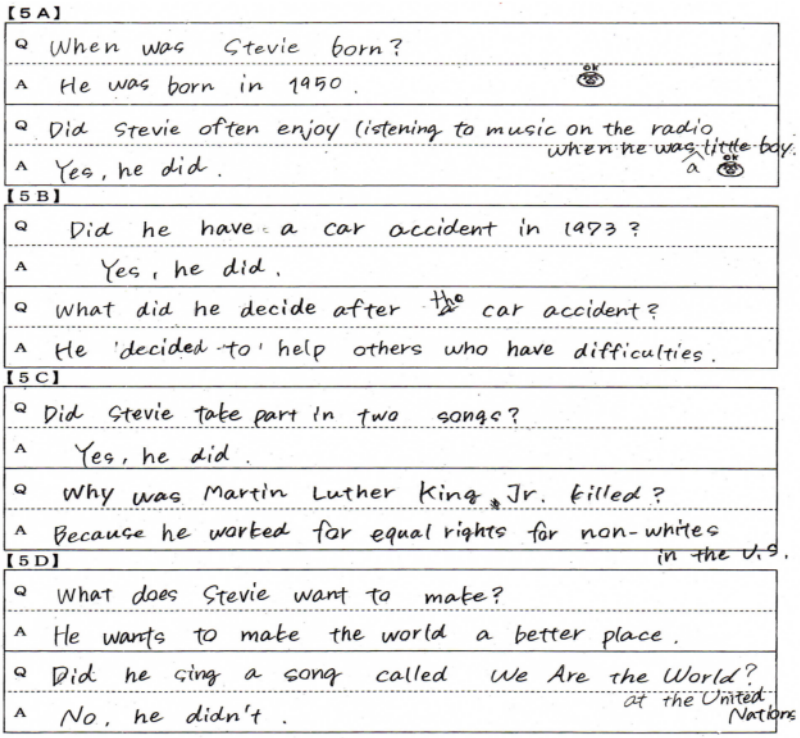
イ　生徒の学びの実際

生徒に事実発問を作らせたときとパフォーマンス課題で用いたルーブリックによる評価の結果（３年生１クラス 39 名対象），事実発問を作らせた時のプリント（**資料１**），フリーレスポンスの時のプリント（**資料２**），感想を言うときの話型（**資料３**），生徒の感想は以下の通りであった。

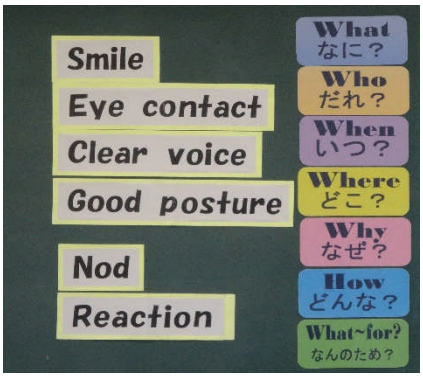
〈事実発問を行ったとき：教師による評価〉

A’	正しい文法を用いて，本文の内容に関する質問を二つ作ることができた。	13 人
A	少々文法に間違いはあるが，本文の内容に関する質問を二つ作ることができた。	22 人
B	本文の内容に関する質問を一つ作ることができた。	4 人
C	本文の内容に関する質問を作ることができない。	0 人

〈生徒の感想〉
○疑問文を作る力（文法力）がついた。
○友だちと質問し合うことでリスニング力も高められた。
○質問を作ることによって，本文の内容をより深く理解することができた。
○本文を何度も読むことで，内容の理解が深められた。
●もう少し本文の内容を理解する時間が欲しかった。


【5A】
Q When was Stevie born?
A He was born in 1950.
Q Did Stevie often enjoy listening to music on the radio when he was little boy.
A Yes, he did.
【5B】
Q Did he have a car accident in 1973?
A Yes, he did.
Q What did he decide after the car accident?
A He 'decided to' help others who have difficulties.
【5C】
Q Did Stevie take part in two songs?
A Yes, he did.
Q Why was Martin Luther King Jr. killed?
A Because he worked for equal rights for non-whites in the U.S.
【5D】
Q What does Stevie want to make?
A He wants to make the world a better place.
Q Did he sing a song called We Are the World?
A No, he didn't. at the United Nations

資料１　事実発問を作らせた時のプリント



事実発問を出し合う時の手立て

事実発問を出し合っている様子

〈フリーレスポンスのとき：生徒による自己評価〉

１．アイコンタクトをしながら自然な笑顔でできた。

A	自然な笑顔でアイコンタクトをして相手が理解しているかどうか確認しようとした。	24 人
B	どちらかができなかった。または，自然な笑顔でできたが，相手が理解しているかどうか確認はできなかった。	15 人
C	両方とも不十分であった。	0 人

２．大きな声でできた。

A	聞き手に聞こえるように，十分大きな声でできた。	30 人
B	少し声が小さいときがあった。	9 人
C	声が小さかった。	0 人

３．ポーズ(間)をとったり大切な語を強調したりして読んだ。

A	二つとも行い，話す内容を聞き手に伝えようとすることができた。	23 人
B	どちらか一つはできた。	15 人
C	ひとつもできなかった。	1 人

４．自分の意見や感想を述べることができた。

A	自分の意見や感想を理由とともに 45 秒程度述べることができた。	25 人
B	自分の意見や感想を理由とともに 30 秒程度述べることができた。	13 人
C	自分の意見や感想を少ししか話すことができなかった。	1 人

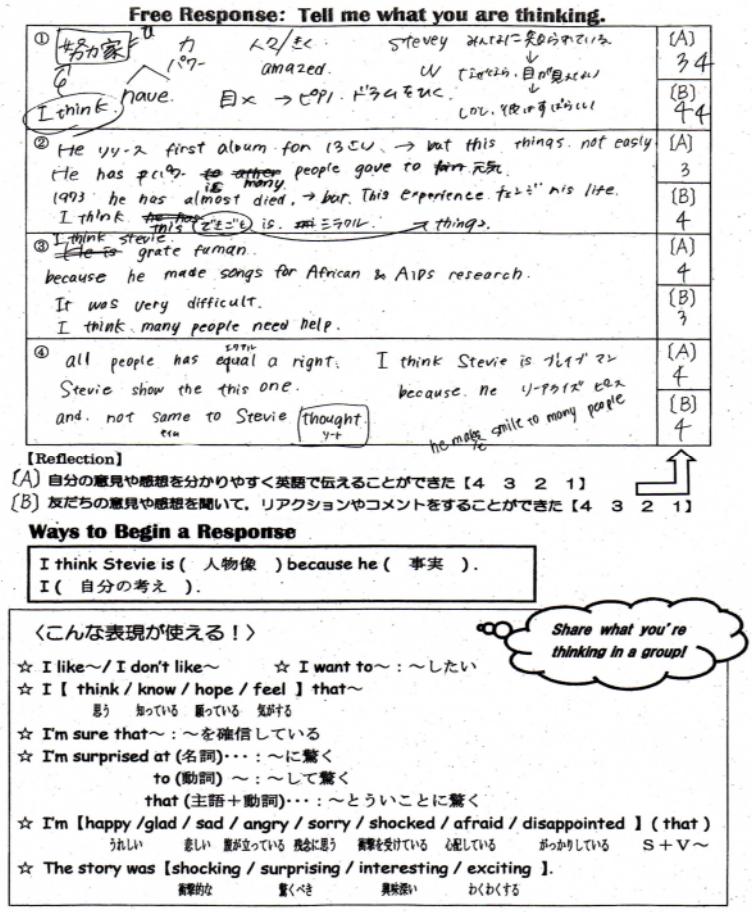
５．友だちの発表に対してリアクションをすることができた。

A	相づちをうったり，関心を表したりすることを友だちの発表の中で数回行い，しかもそれが自然にできた。	23 人
B	相づちをうったり，関心を表したりすることが１，２回できた。	15 人
C	相づちをうったり，関心を表したりすることがほとんどできなかった。	1 人

６．友だちの発表に対して感想を伝えることができた。

A	相づちをうったり関心を表したりすることを友だちの発表の中で数回行い，しかもそれが自然にできた。	20 人
B	相づちをうったり，関心を表したりすることが１，２回できた。	16 人
C	相づちをうったり，関心を表したりすることがほとんどできなかった。	3 人

〈生徒の感想〉
○感想を言うために，友だちの発表を集中して聞き取ることができた。
○自分が発表するときも，聞き手に伝わるためにはどうすればよいか考えながら発表することができた。
○友だちの発表を聞いて，様々な表現方法や考えを知り，学びを深めることができた。
○友だちが私の意見を真剣に聞いて，相づちをうってくれたりリアクションしてくれたりして嬉しかった。
○コミュニケーション力が高められた。　○即興で英語を話す力が身に付いた。



資料２　フリーレスポンスの時のプリント

【Comments】

① I think so, too. / I agree with you.

② I don't think so. I think (自分の考え).

③ I think your idea is (good / nice / great / wonderful).

④ I think (友だちが言ったこと), too.
You said, (友だちが言ったこと). I think so, too.

⑤ I don't think (友だちが言ったこと).
You said, (友だちが言ったこと), but I don't think so.

資料３　感想を言うときの話形

フリーレスポンスの様子

４　成果と課題

(1) 論理的に思考し表現する学び合いの工夫

「問答ゲームが英語の授業で役に立っていますか」という質問に対して，生徒は「６Ｗ１Ｈを使うとたくさんの質問が浮かんできた」「相手からの質問に早く答えることができるようになった」「英語での会話がやりやすくなった」などと答えている。また，英語で質問を作らせることは，生徒が本文を何回も読み，内容を理解することにつながった。しかし，限られた疑問詞だけを用いて疑問文を作っている生徒が多かった。また，英語が苦手な生徒にとっては，自分で教科書の内容を読んで理解することを難しく感じており，二つ質問を作ることができなかった。質問を作らせる前に，本文の内容を教師がどこまで理解させるのがよいのか考えていかなければならない。そして，６Ｗ１Ｈの疑問詞を用いた疑問文の作り方を復習したり，生徒から出た良い疑問文を紹介したりしながら作らせる必要があった。

また，自分の意見や感想，友だちの発表についてのコメントを述べる際，話型を参考にさせた。昨年より，与える語数を減らし，自由度の多い型にした。生徒は，話型を用いながら自分の言葉で話すことができた。また，グループで活動させることで，友だちのよい表現を学び取り，自分の表現の幅を広げることができたようである。

(2) コミュニケーションスキルを磨く学習指導

Lesson 5のすべてのセクションで，フリーレスポンスの活動を行った。グループで一人ずつ意見や感想を述べ，それに対して順番に応答していくという形で行った。回を増すごとに，自分の意見や感想を述べる時間が増えていったり，即興で話せるようになったりした生徒が増えた。生徒自身も，コミュニケーション力が高められたと実感しており，この活動を今後も続けてほしいと感じている。また，この活動を通して，スティービー・ワンダーの生き方から，自分の生き方をより深く考えることができたようである。今後も，学んだ知識をアウトプットの活動や日々の帯学習の時間などでどんどん使わせることを継続していきたい。また，決められた人ではなく，自由にグループの中で自分の意見や感想を話し，それに対して，だれもが自由に応答したり質問したりすることができるインタラクティブな活動になるよう工夫したい。

(3) パフォーマンス評価の充実

１年生の頃から年に数回パフォーマンステストを行ってきた。評価項目は，少しずつ項目を増やしたり，ルーブリックの内容を生徒の実態やパフォーマンスの内容に合わせて変更したりしている。毎回，テスト後に教師の評価もフィードバックすることで，生徒は自分の課題を見付け，表現力とメタ認知能力の向上につながっている。１年生の頃はルーブリックのアイコンタクトや笑顔，声の大きさの項目において全体的にＢの評価が多かったが，３年生になると，ほとんどの生徒がＡの評価になった。このように，英語のスピーキングスキルの上達につながり，そのことが今回の研究において，ペアで質問を出し合う際やフリーレスポンスの際にも役立っていた。

また，Lesson 5 の本文内容理解のフリーレスポンスの活動において，自分の意見や感想を分かりやすく英語で伝えることと，友だちの意見や感想を聞いてリアクションやコメントをすることについて，毎回自己評価をさせた。ルーブリックを用いさせることで，生徒はコミュニケーションを図る際，どのような姿が良いのか具体的に知ることができ，相手を意識したコミュニケーションを図ることができた。そして毎回，自らの学びを振り返ることで成長につなげることができた。今後も，生徒のメタ認知や自信を高め，主体的にコミュニケーションを図っていく姿勢を目指した評価のあり方について考えていきたい。